

勝手にくま鉄検定「究極の上級〇×20問ノック」を受けてみますか？

- 1 KT-501～505の各車両には、前面に季節名が右写真のように英語で表記してあるが、KT-505（白秋号）には、WHITE AUTUMNと表示されている。



- 2 新鶴羽駅の住所は、「湯前町字上牧原1760-3」である。
- 3 人吉温泉駅と湯前駅の標高差は、101.1mである。
- 4 球磨川第四橋梁が改修された年と東人吉駅（現：相良藩願成寺駅）が開業した年は同じである。
- 5 人吉温泉駅5時39分発の1Dに乗って湯前駅に向かうときの各駅での乗降口について、左側と右側の数の差は2である。
- 6 通常、購入することができるお得な切符に、回数券乗車券（11枚綴りで1割引き）、一日フリー切符（大人1,200円、パスポートを提示した外国人は大人1,000円）、パスポートくま（65歳以上が対象で、購入日より月末まで有効：3,000円）などがある。
- 7 熊本地震の復興を支援する活動の一つとして2016年10月29日から約4カ月に渡って運行された「ONE PIECE（ワンピース）」ラッピング列車は、KT-501（冬号）が改装されたものである。



- 8 ホームまで行くのに階段を使わないといけな駅のうち、一番段数が多いのは人吉温泉駅であるが、二番目に多い駅は公立病院前駅である。
- 9 KT-501～505の外側面に描かれている一連の音符（右写真）は、ベートーベンの田園交響曲第1楽章の最初の4小節であるが、この楽章の楽譜が額縁入りで飾られているのはKT-501である。



- 10 くま川鉄道の14の駅のうち、トイレがない駅の数と自動券売機が設置されている駅数は同じである。
- 11 くま川鉄道は、ホームページ上で「平成26年に運行を始めた予約制の観光列車の運行を令和2年3月8日で終了する」と発表したが、その理由として「最近、お客の数が伸び悩み採算ラインを割った」を挙げている。
- 12 文化庁から登録有形文化財の登録を受けているくま川鉄道の諸施設のうち、駅待合所等の登録数はコンクリート製の橋梁（鉄筋入りを含む）の登録数よりも多い。
- 13 人吉温泉駅から湯前方面に向かうと全部で69箇所踏切があるが、最初の御溝踏切は、かつて踏切係員が操作する有人の踏切（第2種踏切）だった。
- 14 くま川鉄道湯前線がかつて走っていたKT-100系、KT-200系、KT311と、現在走っているKT-500系の4つの車両群のうち、車両全長が一番長いのはKT-500系で、空車重量が一番軽いのはKT-100系である。
- 15 2009年（平成21年）、KT-101とKT-203に三戸岡鋭治氏のデザインによる改修が施され、KT-203に「KUMA-1」、KT101には「KUMA-2」の愛称がつけられた。
- 16 あさぎり駅で1日に10回行われる列車の行き違いは、全て「上り列車が到着→下り列車が到着→両列車が（ほぼ）同時に発車」の順番で行われる。
- 17 鉄道沿線地域への誘客を図るため、温泉や飲食店、観光施設などで、各鉄道が販売しているキャンペーンの対象となる切符を提示すると、お得なサービスが受けられる「2020くまもとみなみ3鉄道周遊キャンペーン」の対象となる鉄道会社は、「南阿蘇鉄道」、「肥薩おれんじ鉄道」、「くま川鉄道」の県内3つの第三セクターである。
- 18 田園シンフォニーが5両全部そろったことから2015年（平成27年）1月15日に全車両を連結して臨時運行されたが、このときの編成は湯前側から「冬・白秋・秋・夏・春」の順に連結された。

19 くま川鉄道で唯一行き違いの施設があるあさぎり駅に関して、人吉温泉駅とあさぎり駅間の距離と、あさぎり駅と湯前駅間の距離とでは、あさぎり駅と湯前駅間の距離のほうが短い。

20 右の写真の矢印は、公立病院前の正面を流れる球磨川の支流の様子を国道219号線越しに撮ったものである。

この川は、柳橋川と呼ばれ、くま川鉄道では東免田駅と公立病院前駅の間に架けられた橋梁で跨ぐ。



いかがでしたか？

それでは、勝手にくま鉄検定「究極の上級〇×20問ノック」の正解と解説です。

1 ×

日頃から車両を注意深く見つめている方にとっては簡単だったはずです。

勿論、WHITE AUTUMNではなくて、日本語での発音をそのままローマ字で綴ったHAKUSYUが正解です。

ただし、ホームページの車両紹介では、右のイラストのようにWhite autumnで載っています。

ちなみに、秋はautumnとfallの2つがあり、手元の辞書によると通常は詩的な響きがするautumnよりもfallが広く用いられるとありましたが、くま川鉄道ではKT-502：「秋」の前面には、AUTUMNと描いてあります。

田園シンフォニーは、人吉球磨の美しい四季の移ろいを感じながら穏やかな風景を楽しむというのがコンセプトで、「白秋」は秋に球磨盆地で発生する濃い霧をイメージしているものと思われます。

この問題は、列車前部の表示をヒントに作問たわけですが、KT-505：「白秋」のサイド（外側面）にはどう表示されているかご存じですか？

六角形の枠囲みの中に「白」と描いてあります。

KT-501 (茶) 冬 Winter



KT-502 (赤) 秋 Autumn



KT-503 (ベージュ) 春 Spring



KT-504 (青) 夏 Summer



KT-505 (白) 白秋 White autumn



参考までに、全ての車両の写真を示します。この問題をきっかけに、各車両を注意深く見てみるのも興味深いことと思います。



2 ×

多良木町植木1052-3です。

勿論、この問題は駅の住所について、番地までこと細かく暗記している知識を問うものではありません。新鶴羽駅が湯前町ではなく、多良木町に所在することを知っていれば即座に誤りと判断できます。番地を問うような問題は、いくら上級といえども出題されることはないと考えられますから。

人吉球磨には全部で10市町村ありますが、くま川鉄道はそのうち6市町村を通る重要な交通インフラで、中でも多良木町には、くま川鉄道で最多の4つの駅（公立病院前・多良木・東多良木・湯前）が所在します！

右の地図を見ながら、14の各駅が所在する市町村を改めて押さえておきましょう。

人吉温泉駅（人吉市）、相良藩願成寺駅（人吉市）、川村駅（相良村）、肥後西村駅（錦町）、一武駅（錦町）、木上駅（錦町）、おかどめ幸福駅（あさぎり町）、あさぎり駅（あさぎり町）、東免田駅（あさぎり町）、公立病院前駅（多良木町）、多良木駅（多良木町）、東多良木駅（多良木町）、新鶴羽駅（多良木町）、湯前駅（湯前町）



3 ×

101.1mというのは、JR肥薩線（川線）の八代駅（5.5m）と人吉駅（106.6m）の標高差になります。人吉温泉駅と湯前駅（188.9m）の標高差は、 $188.9 - 106.6$ を計算して82.3mです。基本的に湯前駅方面に向かう下りのときは、見た目には感じないかもしれませんが、ゆるやかな登り坂が続いていると認識しておきましょう。逆に、人吉温泉駅に向かう列車は下り坂になるわけですが、このことで国鉄時代に悲惨な事故が起きたことがあります。

1970年（昭和45年）1月15日に、パルプ材を満載した2両編成の貨車が湯前駅で貨車の連結作業中、そのショックで逸走して約5キロ暴走し、「多良木⇄東免田」駅間で信号待ちをしていたディーゼルカーと正面衝突をしたというものです。乗客90人以上が重軽傷を負い、近くの公立病院に運ばれたと翌日の新聞で大きく報じられました。



4 ○

どちらも、1937年（昭和12年）の出来事でした。

昭和12年というのは、中国の北京郊外の盧溝橋で日中両軍が衝突（盧溝橋事件）して、日中戦争始まった年になります。これが泥沼化して第二次世界大戦に向かいました。

5 ○

1Dは、人吉温泉駅の4番ホームから出発して乗降口は左側です。以後、相良藩願成寺駅、川村駅、あさぎり駅、東多良木駅、湯前駅の6つの駅が左側になります。くま川鉄道は全部で14駅ありますので、右側が8駅となり、その差は2です。

この問題は、人吉温泉駅で、通常1日に3回（1D、3D、17D）列車が4番線から出発することを基礎知識として持っておかないと正解に辿り着けません。

6 ○

3種類の切符に対して、4つのことが書いてありますが、いずれも正しいです。

ただ、65歳以上で、一カ月3千円で乗り放題の「パスポートくま」なる切符の存在、私は今回初めて知りました。あさぎり駅の自動券売機の横に貼ってあった「パスポートくま」の案内紙をパシャリしました。



7 ×

KT-505（白秋号）が改装されました。

列車内では、主人公・ルフィの声でのアナウンスがあったり、スタンプラリーが開催されたりしたこともあって、子ども連れの乗客で賑わったと報じられました。

この「ONE PIECE（ワンピース）」というのは、尾田栄一郎氏（熊本市出身）による「週刊少年ジャンプ」（集英社）に連載中の少年漫画です。

Wikipedia によると、「海賊王を夢見る少年モンキー・D・ルフィを主人公とする「ひとつなぎの大秘宝（ワンピース）」を巡る海洋冒険ロマンで、長年にわたりながら深く練り込まれた壮大な世界観・巧緻な設定のストーリーが特徴」とありました。

尾田栄一郎氏には、世界に誇る偉大な功績と復興支援への尽力を称えて、平成30年4月に熊本県民栄誉賞が贈呈され、県庁プロムナードには「ONE PIECE（ワンピース）」の主人公・ルフィの像が設置されました。



8 ×

全ての駅のことを知っておかないと、解けない問題になります。

人吉温泉駅（JR人吉駅正面右手階段から計49段、平成3年に設置された人吉駅裏手の階段から計51段）、川村駅（15段）、公立病院前駅（9段）、おかどめ幸福駅（7段）、あさぎり駅・木上駅・新鶴羽駅（6段）の順番に並びますから、問題文の前段は正しく後段が誤りで、二番目は川村駅となります。ただし、あさぎり駅は1番ホームから2番ホームに渡る際に、まず6段の階段を下りて線路を横断し、スロープを登ることになります。

階段の段数というのは、出題者の興味を引くのか、筆者がこれまで受けてきた京都検定（京都駅ビルの階段が171段）や奈良検定（猿沢池から興福寺への石段が52段）でも出題されていました。

ちなみに、くま川鉄道あさぎり駅舎が入っているポッポー館は、写真のように蒸気機関車（SL）を模した建物で、JAくま免田支所、図書コーナー、多目的ホールが同居する全国的にも珍しい複合施設ですが、SLの煙突部分を模した展望台までの段数は74段でした。



9 ○

ベートーベンの田園交響曲に関する基礎知識と、KT-501～505の全ての車両のそれに関する内装を知っておかないと解けない問題になります。

まず、前段の田園交響曲第1楽章の最初の4小節という記述ですが、この曲は2拍子ですから最初の4小節というのは間違いありません。

正確には、楽譜の写真内の黄色の枠囲みで示すように、この曲は八分休符から始まるのですが、やはり「出発(は)進行」であるべきで、いきなり「休止」では鉄道としてさまにならないという理由で、描くのを省略されたのかもしれませんが（笑）

1. Allegro ma non troppo



後段も正しいです。田園シンフォニーのKT501～505は、全車両に、スコア（オーケストラ用の楽譜）の写しが額に納められて掲示されているほどの凝りようです。しかし、KT-501（冬：茶色）が第1楽章（写真①）、KT-502（秋：赤色）が第5楽章（写真②）、KT-503（春：ベージュ色）が第2楽章（写真③）、KT-504（夏：青色）が第4楽章（写真④）、KT-505（白秋：白色）が第3楽章（写真⑤）というように、それぞれ異なる楽章の冒頭のスコアが収められていることに気付いている人は少ないかもしれません。くま川鉄道のこの「凝りよう」に敬意を表して、今度乗車するときは、各車両をじっくりと眺めてみてはいかがでしょうか。

KTの1の位の数字を1→2→3→4→5と並べたとき、それに相応する楽章の並びは1→5→2→4→3となり、KT-501とKT-504が楽章と一致します。

実際、下の①～⑤の写真を見ても分かるとおり、バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス等などの楽器の配置もそれぞれ違います。



10 ○

全ての駅のことを知っておかないと、解けない問題になります。

トイレ施設がない駅は、川村駅、木上駅、公立病院前駅、東多良木駅、新鶴羽駅の5駅です。一方、自動券売機が設置されている駅は、人吉温泉駅、

相良藩願成寺駅、あさぎり駅、多良木駅、湯前駅の5駅です。従って、同じ数になります。

駅の個数については、改札業務などを行う有人駅の個数も覚えておきたいところです。午前中の一部の時間帯だけ業務を行う駅も含めると、人吉温泉駅（終日）、相良藩願成寺駅（6:00～9:00）、あさぎり駅（終日）、湯前駅（6:00～10:00）の4駅になります。

11 ×

日頃からホームページをよく見てないと、解けないかもしれません。

2020年（令和2年）1月23日に「観光列車はびねすトレイン運行終了のお知らせ」と題して、以下のような記事がアップされました。

いつもくま川鉄道をご利用頂き誠にありがとうございます。

平成26年に運行を始めた予約制の観光列車は、令和2年3月8日運行を持ちまして終了いたします。

運行開始から、多くの皆様方にご乗車頂きましたが、今後のニーズを踏まえ運行形態を変える事を見据え、終了することとなりました。

今後は、貸切列車を利用した企画列車を計画して運行いたしますので、その際はぜひご利用下さいますようお願い申し上げます。

「観光列車はびねすトレイン」の最終運行は、3月8日（日）となり、ゆっくり運転、おもてなし、観光案内などもこの日が最後となります、最終の予約日は2月3日（火）～3月4日（水）となります。

なお、観光列車運行にあたり、地域の皆様方のおもてなし活動、お見送り、ご支援、様々なボランティア活動など誠にありがとうございました。引き続きのご支援よろしくお願い申し上げます。

従って、運行終了の理由は「今後のニーズを踏まえ運行形態を変える」が正しくなります。

12 ×

くま川鉄道が保有する諸施設のうち、文化庁から登録有形文化財の登録を受けたものは全部で19箇所、これは上級を受ける方なら常識の範囲かもしれませんが、その内訳まで把握している方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。少なくとも、私は今回上級の勉強をして初めて知りました。

それによると、登録を受けた駅待合所等は、川村駅、木上駅、東多良木駅、湯前駅の4箇所、残る15箇所は全て橋梁です。

15箇所の橋梁の内訳は、鋼製が10箇所、コンクリート製（鉄筋入りを含む）が5箇所になります。

従ってコンクリート製の橋梁の数のほうが1つ多いことになります。

諸施設がそれぞれどこに所在するか、登録理由は何か等に興味がある方は、文化庁のホームページにも掲載されていますが、人吉温泉駅の跨線橋の壁に、写真のような登録有形文化財の詳細について紹介した地図付きの掲示紙がありますので、それを参考にしてください。



13 ×

これは前段が誤りです。踏切の数は、前部で62箇所です。後段は、最初の踏切が御溝踏切、そこがかつて係員が遮断機を操作していた有人の踏切で、その種別が第2種踏切であることも含めて正しい記述になります。

1985年（昭和60年）に撮影された、当時の御溝踏切の様子を写した写真（左下）を見つけました。右下は現在の様子です。係員が詰めていた小屋の基礎コンクリートの跡が今でも残っていますが、隔世の感がします。



なお、踏切は次の4つに分類されます。「第1種」は、警報器と遮断機を備えた踏切。「第2種」は、係員のいる時間帯だけ手動で遮断機が作動する踏切（ただし、現在我が国にはありません）。「第3種」は、警報器のみ備えた踏切。「第4種」は、警報器も遮断機もなく標識のみ設置された踏切です。くま川鉄道では、ほとんどの踏切が第1種踏切ですが、第3種踏切が1箇所、第4種踏切が全部で7箇所あります。

大変レアな存在である第3種踏切は、東免田駅と公立病院駅間にあり、「小城第五踏切」（右写真）と呼ばれています。

なお、69と数字も上級受験者なら押さえておくべき数字で、長さ1m以上の橋梁の数になります。



14 ○

車両全長と空車重量、(参考までに)出力と乗車定員は以下のとおりです。

KT-100系：16,300mm、26.2 t、250ps、108人

KT-200系：16,300mm、29.7 t、250ps、102人

K311：17,250mm、30.0 t、250ps、98人

KT-500系：18,500mm、32.2 t前後、330ps、114人前後

15 ○

前段の「2009年(平成21年)、KT-101とKT-203が三戸岡鋭治氏のデザインによる改修が施され」という箇所は正しいです。

後段の「KT-203に「KUMA-1」、KT-101には「KUMA-2」の愛称がつけられた」という箇所も正しいです。

もし、この問題が、「KUMA-1」、「KUMA-2」は共に廃車になり、あさぎり駅に湯前側から「KUMA-1」、「KUMA-2」の順に留置し静態保存されている。とあったら、どうでしょうか。

前段の「…廃車になり」というのは、除籍になったことを意味しますので正しいです。しかし、後段が誤っており、写真に示すとおり、正しくは「…湯前側から「KUMA-2」、KUMA-1」の順に留置され…」となります。



なお、一般に「静態保存」とは、機械類が本来の用途とその動作運用が可能とは限らない状態で保存されていることをいいます。これに対し、動作運用が可能な状態で保存されているときは、「動態保存」といいます。

16 ✕

あさぎり駅に終日張り付いて、行き違いの様子を観察したことがない方には難しい問題だったかもしれません。検定試験や入試では、「全て」といった強い限定を伴う選択肢は誤りになることが多いですが、この問題はいかに？

まず、前段の1日に10回行き違いがあるという記述は、正しいです。午前中に4回、午後に6回あります。

後段が誤りです。例えば、6時45分頃の最初の行き違いである2Dと3Dの場合は、下り列車が到着→上り列車が到着→同時に出発となります。次の7時50分頃の4Dと5Dの行き違いでは、上り列車が到着→下り列車が到着→上り列車が到着→下り列車が到着の順になります。それ以降の列車の行き違いは、問題文にあるとおりの順番で行われています。

17 ✕

このキャンペーン、2020年（令和2年）は、3月14日（土）から5月31日（日）まで行われる予定です。

前段で述べられているキャンペーンの目的・趣旨は正しいです。

しかし、後段の記述に誤りがあります。対象となる鉄道会社は、「JR肥薩線」、「肥薩おれんじ鉄道」、「くま川鉄道」の県南3鉄道です。今年は新たに、この県南3鉄道が乗り放題の企画切符「くまもと県南ぐるりんきっぷ」が販売される予定と聞いています。

本キャンペーンについて知らなかった方も、キャンペーンの名称に「みなみ」とあることに気づけば、「南」阿蘇鉄道の南につられない限り、これを除外するのは簡単だったかもしれません。

18 ✕

前段は正しいですが、後段が誤りで、湯前側から「春・夏・秋・白秋・冬」の順になります。右の乗車券の写真を見ただけで、どちらが湯前側か判断できますか？今度、球磨川第四橋梁を渡るとき、周りの景色を注意深く眺めてみましょう。



もし、この問題の後段が、「このとき車両デザインを担当した三戸岡悦治氏も同乗した。」だったらいかがでしょうか。

実は、これも誤りになります。三戸岡氏が乗車したのは、2014年3月8日、田園シンフォニーの運行開始日でした。

19 ○

くま川鉄道で唯一列車の行き違いの設備があるあさぎり駅は、人吉温泉駅から15.1 kmの地点にあります。くま川鉄道の総延長は24.8 kmですから、人吉温泉駅から向かうと、中間点（12.4 km地点）を通り越した先にあさぎり駅が位置していることになります。

では、中間地点はどの辺りでしょうか？

木上駅が人吉温泉駅から11.33 km地点、おかどめ幸福駅が同13.12 km地点ですから、木上駅とおかどめ幸福駅の間にありと予想されます。

線路沿いには、100m毎に距離標が設置されています。12.4 kmを示す



「4」の距離標（黄矢印：正確には「丙号距離標」）を線路沿いの道路から探してみました。

木上駅とおかどめ幸福駅の間にある、平野第一踏切と平野第二踏切（写真奥）の間に立っていました。

ということで、その地点を Google Earth（開業30周年記念冊子の中に収められていた写真）に書き込んでみました。距離感のイメージが掴めましたか？



20 ×

問題文前段は、正しいです。信号機が一部写っていますが、この交差点のすぐ左側に、写真のように、川の名称が「柳橋川」と大きく記した看板にあります。しかし、後段が誤っています。この柳橋川をくま川鉄道では、公立病院前駅と多良木駅の間に架かる鉄橋で跨ぎます。



くま川鉄道は長さ1 m以上の橋梁が69箇所あるなど、沢山の支流を集めて流れる球磨川とは切っても切れない関係にあります。



12の解説でも触れたように、橋梁を例にあげても、全橋梁のおよそ5分の1に相当する15橋梁が文化庁から登録文化財の登録を受けています。時間が許せば、列車の外から球磨川鉄道の諸施設を眺めてみませんか？

肥薩線の川線（JR人吉駅⇄八代駅間）ほどではないにしろ、球磨川鉄道の線路が球磨川の形状に沿って敷かれていると感じるなど、新たな発見があるはずです。

最後まで解いていただき、ありがとうございました。

誤植や、私自身が間違えて理解しているところがあるかもしれません。

何か気づいたことがあればお知らせいただきますと、嬉しいです。

お疲れ様でした。